

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
期末配当の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル) 受付時間 / 9:00~17:00 (土日祝日を除く)
公告方法	電子公告により行う。
公告掲載 URL	http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/ ※ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、最新のニュースリリースや決算情報をはじめ、決算説明会の模様を動画で配信するなど、株主・投資家の皆さま向けの情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



<http://www.sbigroup.co.jp/>

SBIホールディングス株式会社

〒106-6019 東京都港区六本木一丁目6番1号
TEL.03-6229-0100
FAX.03-3224-1970
E-mail : inq-ir@sbigroup.co.jp

〈免責事項〉

この報告書に記載されている、SBIホールディングス(株)および連結子会社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実のないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは各資料発表時点においてSBIホールディングス(株)の経営方針により、入手可能な情報およびSBIホールディングス(株)が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものです。したがって、主要市場における経済情勢やサービスに対する需要動向、為替相場の変動など、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている見通しとは、異なる結果となり得ることをご承知おきください。



株主通信

SBIホールディングス株式会社

第12期 報告書

2009年4月1日~2010年3月31日



SBIホールディングス株式会社
代表取締役 執行役員 CEO

北尾 吉孝

ごあいさつ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は当社事業にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当期における国内経済は、各国の景気対策による下支え効果もあり、海外、特にアジア地域での景気回復を享受できる企業を中心に、業況判断においても改善の動きが見られるなど、緩やかに持ち直してきております。しかし一方で、世界的な景気の下振れ懸念も完全には払拭できず、全般的には厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、経営のさらなる合理化と各事業の発展に邁進した結果、当社グループの当期連結業績は、当期純利益が2期ぶりとなる最終黒字に転換し、完全な回復には至らないものの、底打ちを実感できる内容となりました。

また、当期においては今後のグループのさらなる成長に向けた、新たな経営戦略を策定いたしました。これは、金融サービス事業における「ペンタゴン（五角形）経営」として、5つのコア事業（証券、銀行、損保、生保、決済サービス）を設置し、各コア事業間にシナジーを一層発揮させるとともに、コア事業の周囲にサポート機能を持つ関連企業を配置し、企業生態系全体のシナジーを極大化させながら、それぞれのコア事業が新興国への海外展開を目指していくというものです。海外展開においてはこれまでのところ、新興国を中心に現地有力パートナーと提携して行う投資事業が主体となっています。（詳しくはP7-9をご覧ください。）

なお、当期末における1株当たり配当金につきましては、普通配当50円といたしました。また、2009年7月に当社が創業10周年を迎えたことを記念して、加えて記念配当50円を実施し、当期末の配当金は1株当たり100円とさせていただきます。

今後とも、当社事業の発展と企業価値の向上へ向けて、全役職員一同尽力してまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

決算のポイント

POINT ①

完全な回復には至らないものの連結業績は底打ちし、当期純利益は2期ぶりとなる最終黒字に転換

POINT ②

引当金繰入等を計上し、合計82億円となる損失処理を実施
(貸倒引当金繰入:42億円、投資損失引当金繰入:30億円他)

POINT ③

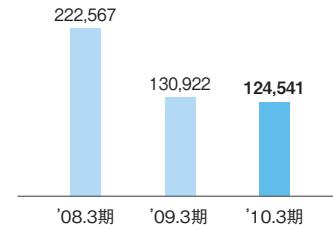
ブローカレッジ&インベストメントバンキング(証券関連)事業は、SBI証券のFX取引の好調等により部門営業利益が前期57億円から93億円へと大幅に拡大

セグメント別業績の推移 (百万円)

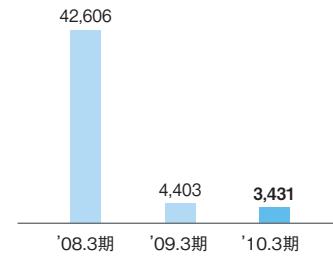
	売上高			営業利益 (▲は損失)		
	2009年3月期	2010年3月期	構成比(%)	2009年3月期	2010年3月期	構成比(%)
■ アセットマネジメント	15,981	20,194	15.5	2,594	1,863	17.1
■ ブローカレッジ&インベストメントバンキング	49,182	50,122	38.6	5,714	9,374	86.0
■ ファイナンシャル・サービス	22,617	25,605	19.7	1,491	206	1.9
■ 住宅不動産関連	40,906	29,408	22.6	923	▲ 35	▲ 0.3
■ システムソリューション	6,354	4,629	3.6	▲ 303	▲ 515	▲ 4.7
小計	135,042	129,961	100.0	10,420	10,893	100.0
連結消去及び全社費用	(4,119)	(5,419)	-	(6,016)	(7,462)	-
合計	130,922	124,541	-	4,403	3,431	-

決算ハイライト

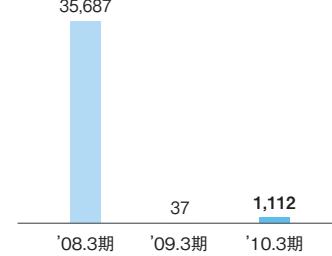
売上高 (百万円)



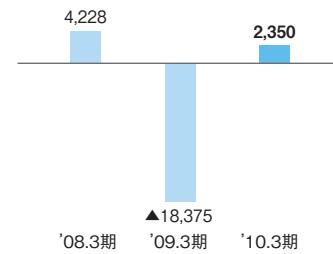
営業利益 (百万円)



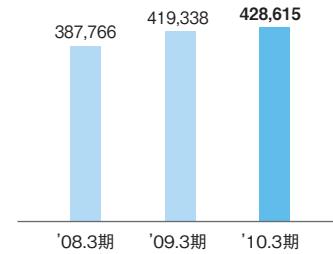
経常利益 (百万円)



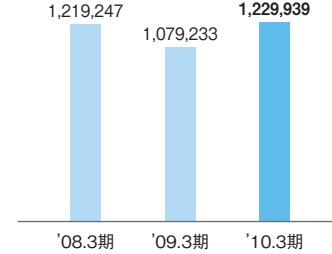
当期純利益(純損失) (百万円)



純資産 (百万円)



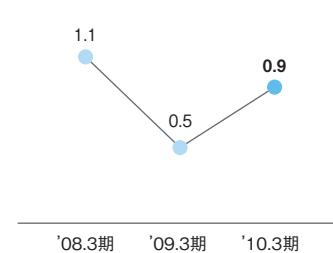
総資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



PBR (株価純資産倍率) (倍)



$$PBR = \frac{\text{各期末当社株式東証終値}}{\text{各期末1株当たり純資産}}$$

(2010年3月末当社株式東証終値:18,450円)

セグメント別業績の概況

アセットマネジメント事業

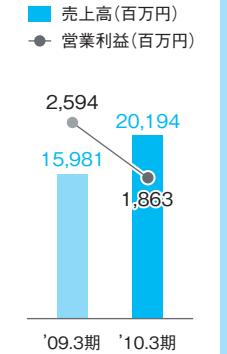
IT・バイオ・パイアウト等のファンド運用、投資商品の組成、および中国やインドなど成長性の高い海外市場へ投資するベンチャーキャピタル・ファンドの設立等

決算のポイント

- 国内市場のIPO件数は昨年度の34社をさらに下回る19社と低迷し、厳しい事業環境が続きましたが、当社グループでは国内外で投資先計11社のIPO・M&Aを実現しました。特に、2005年から中国において投資を実行しており収穫期にあるNew Horizon Fundが、保有株の売却を継続して実施し、大きく収益に貢献しました。
- 上記のように当事業の環境は基本的には復調しつつあり、韓国の投資先であったKTIC Holdingsに対して26億円の投資損失引当金繰入を計上したものの、当事業においては18億円の営業黒字を確保しました。

アセットマネジメント事業におけるIPO・M&A実績

	IPO・M&A社数
1999年7月の事業開始から2008年3月期まで	111
2009年3月期 通期実績	0
2010年3月期 通期実績	11



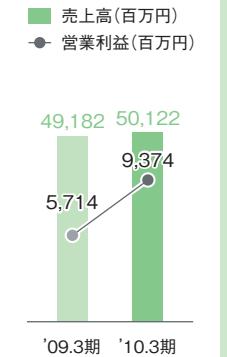
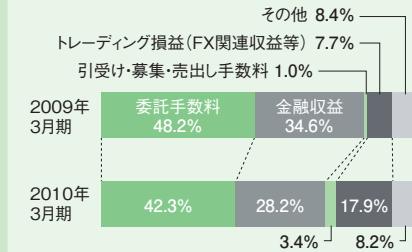
ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

SBI証券を中心に「ネット」と「リアル」の融合を図りながら展開する総合証券業務等

決算のポイント

- SBI証券の業績は、引き続きFX取引が好調に推移していることなどから、営業利益は124億円（前期比29.0%増）となりました。SBI証券の口座数は、2009年12月末にオンライン証券で初めてとなる200万口座を突破し、2010年3月末時点では205万口座と圧倒的な顧客基盤を有しております。
- 2008年11月に営業を開始したSBIリクイディティ・マーケット（FX取引の市場機能提供）は、当期営業収益（売上高）105億円、営業利益30億円となり、短期間で連結業績に大きく貢献する子会社に成長しました。

SBI証券 営業収益(連結)構成比



ファイナンシャル・サービス事業

金融分野における幅広い商品・サービスを、インターネットを通じて提供する事業

決算のポイント

- モーニングスター、SBIペリトランスなどの既存事業は好調に推移しましたが、新規事業の1つであるSBIカードが貸倒引当金繰入等により赤字幅が拡大し、当事業全体における営業利益は前期比86.1%減の2億円となりました。
- これまで営業損失を計上していたSBIカードプロセッシングおよびSBIアクサ生命については、経営の一層の効率化のため当期に保有全株式を売却しました。
- 住信SBIネット銀行は、2007年9月の開業からわずか2年半で預金残高が1兆2,000億円を突破^(※)、当期において早くも通期経常黒字23億600万円を達成し、持分法投資損益（営業外損益）の改善に貢献しています。また、SBI損保は、低水準の保険料が好評で、当期の年間獲得契約件数は前期比2.3倍の約9万7,000件となりました。

※2010年4月4日時点

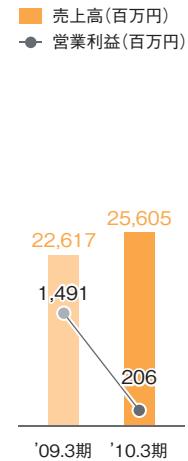
上場子会社の業績

(単位:百万円、()は前期比増減率:%)

※1	売上高	営業利益	当期純利益
モーニングスター	2,364 (▲15.3)	415 (+28.5)	297 (+20.0)
ゴメス・コンサルティング	393 (▲2.6)	11 (-)※2	26 (-)※2
SBIペリトランス	5,024 (+14.1)	1,016 (+10.3)	613 (+9.3)

※1 モーニングスター、SBIペリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

※2 前期の営業損失は▲45百万円、当期純損益は▲21百万円となっております。

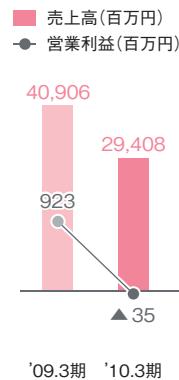


住宅不動産関連事業

住宅ローンの貸出・取次業務、不動産物件への投資・不動産開発、および各種生活関連比較サイトの運営・生活関連商品の提供等

決算のポイント

- 長期固定住宅ローン商品「フラット35」を手掛けるSBIモーゲージは、前期比46.0%増の16億円の営業利益を計上し好調でしたが、不動産市場は引き続き厳しい状況であったことから、当事業全体では3,500万円の営業損失となりました。
- SBIライフリビングでは、インターネットメディア事業（EC・仲介サービスサイトの運営）が堅調に推移した結果、業績が改善し黒字化しました。

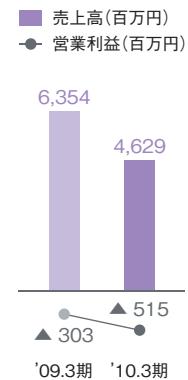


システムソリューション事業

金融機関向けシステムソリューションの提供・開発・運用サービス等

決算のポイント

- SBIネットシステムズの業績は、当初予想数値を下回り、セグメントにおける営業損失幅も、前期と比較して拡大しました。事業の再構築や販管費の削減等を継続して進めており、2011年3月期は黒字転換を見込んでおります。



トピックス

ゲオ店舗内に初のSBIマネープラザOPEN —— 大阪府八尾市

SBIホールディングスと株式会社ゲオは、包括的業務提携の一環として、SBIホールディングスの子会社であるSBIモーゲージが運営する「SBI住宅ローン／SBIマネープラザ」のゲオ店舗内併設第1号店を2010年3月、大阪府八尾市のゲオ八尾店内にオープンしました。

ゲオ八尾店は、全国に約980店舗を展開するゲオショップの中でもトップクラスの集客力を有しますが、SBIマネープラザのオープンにより、来店したお客さまに対して、DVD・ゲーム等のレンタル・販売だけでなく、金融商品・サービスをワンストップで提供することが可能となりました。今後、取り扱い商品・サービスを順次拡大していく予定です。^(※)

^(※) 当初は、住宅ローンおよびそれに付随する火災保険を中心とした商品・サービスを提供します。



「SBI住宅ローン／SBIマネープラザ」ゲオ八尾店



第三者機関による調査・ランキングで高い評価を獲得！

当社グループ会社の各商品・サービスは、おかげさまで様々な評価機関より高い評価をいただいています。

SBI証券	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「オリコンCS（顧客満足度）ランキング」ネット証券ランキングにて総合1位（2009年12月発表） ■ 「日経トレンディ」2009年11月号にて、ネット証券の中のBEST証券に選ばれました。 ■ ストック・リサーチ社のインターネット証券ランキングにて総合ランキング1位（2009年1月発表）
住信SBIネット銀行	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「平成21年度 JCSI（日本版顧客満足度指数）調査」の顧客満足度評価（銀行業界）にて1位（2010年3月発表） ■ 「第6回日経金融機関ランキング」の顧客の満足度評価にて2位（2010年1月発表） ■ 「クチコミランキング」のネットバンクランキングにて1位（2010年1月発表） ■ 「あるじゃん」2009年10月号の利息・手数料の安さ・投資信託取扱本数にて1位
SBI損保	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「週刊ダイヤモンド」2010年3月20日号の自動車保険料ランキングにて1位 ■ 「オリコンCS（顧客満足度）ランキング」自動車保険ランキングにて保険料の満足度：1位 付帯サービスの充実度：1位 申込み時の利便性：2位（2009年12月発表）
SBIカード	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「あるじゃん」2009年11月号の『クレジットカード最強の1枚』にて、どこで利用しても還元率の高いカードとして紹介

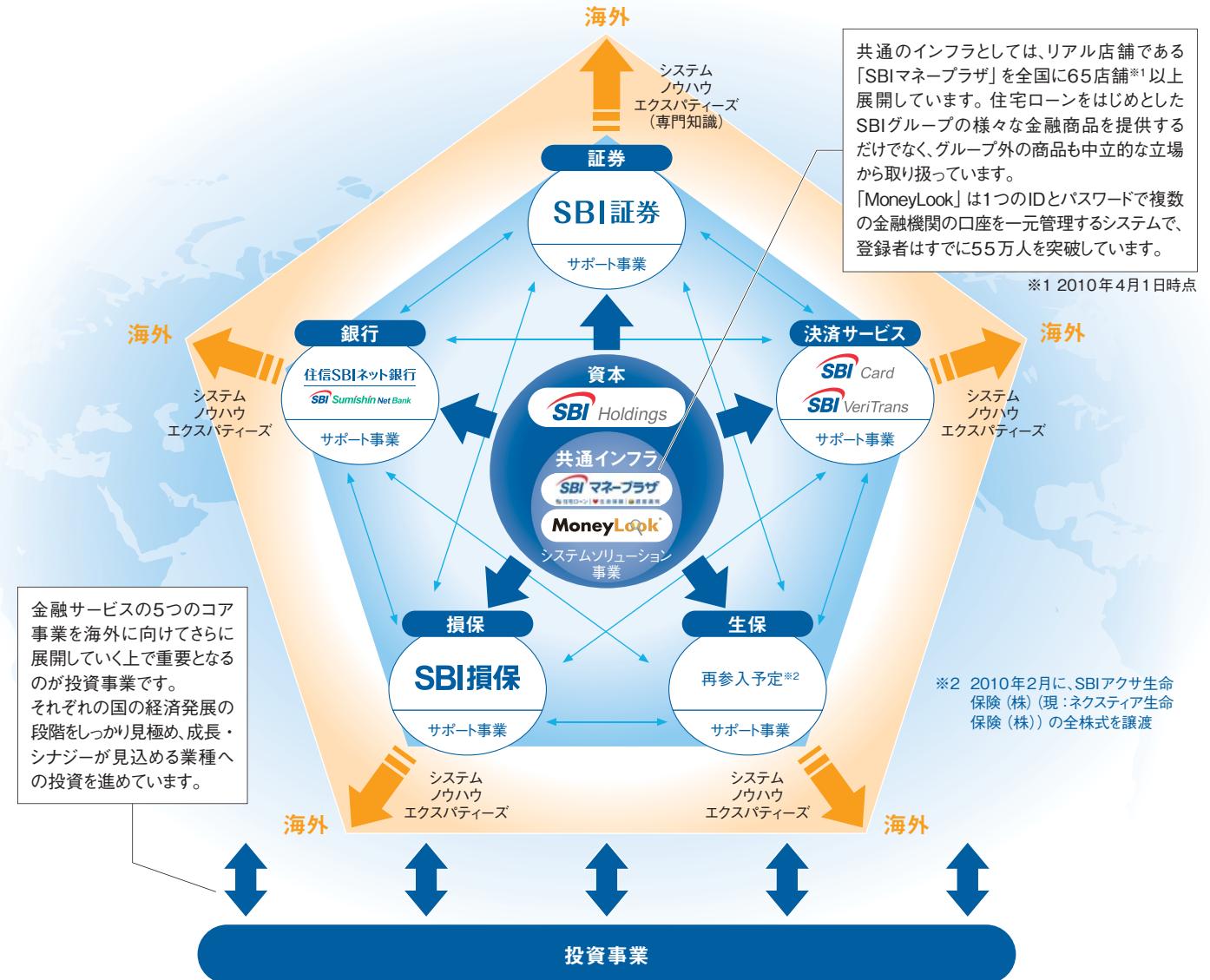
金融サービス事業のペンタゴン経営とは

証券や銀行などを中心に、ネット金融のコングロマリットを形成してきたSBIグループは、今後5つのコア事業を中心に据えた、金融サービス事業の「ペンタゴン経営」を目指してまいります。これは5つの事業部門にそれぞれサポート機能を持った関連企業（事業）を配置し、コア事業同士のシナジー、またコア事業とサポート企業とのシナジーを徹底的に追求し、コア事業を躍進させていく体制のことをいいます。また、5つのコア事業はそれぞれ海外に向かって展開させていく方針です。

- 1 形成された金融生態系のうち、「証券」、「銀行」、「損害保険」、「生命保険」※1、「決済サービス」を金融サービスの5つのコア事業とする
- 2 コア事業間を相互に関連させシナジーを発揮することで、グループ全体の飛躍的な成長を促す
- 3 各コア事業を中心に、各コア事業のサポート機能をもつ関連企業・事業を配置し、各コア事業とのシナジー効果を徹底的に追求することで、競合他社との差別化を図り、各コア事業の飛躍的な成長を促す
- 4 5つのコア事業の成長を加速させるインフラ事業としてSBIマネープラザなどのリアルチャネルを日本全国に展開※2し、ネットとリアルとの融合を進めるとともに、グループの内外に係わらず「中立的な立場」で、顧客にとって比較優位な商品を選別し提供することにより、「日本最大の金融商品ディストリビューター」を目指す
- 5 日本で蓄積してきたコア事業のシステム・ノウハウなどを、海外新興国の経済発展の段階にあわせて順次移出することで、新興諸国における金融サービス事業の展開をすすめる

※1 生命保険事業は、1年から1年半後の再参入に向けて準備を開始（予定） ※2 2010年度早期にグループ合計200拠点達成を目指す

金融サービス事業におけるペンタゴン経営の概念図

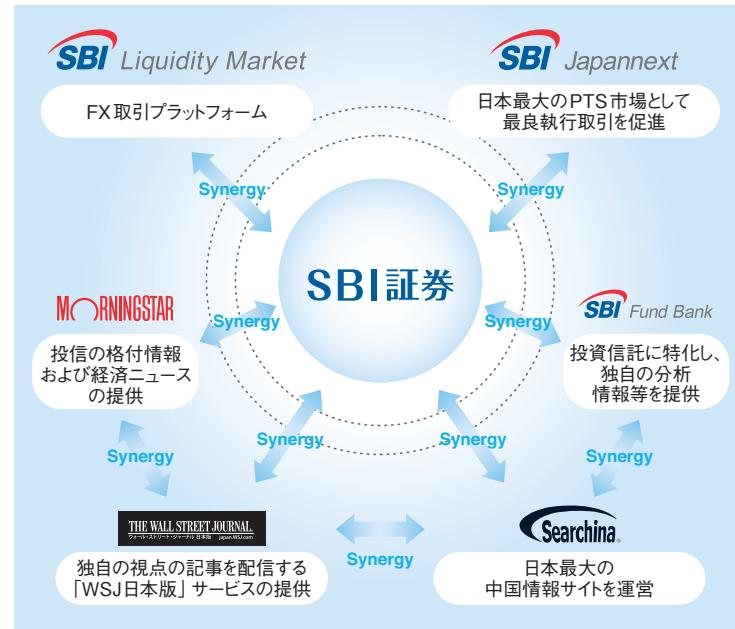


コア事業のさらなる競争力強化に向けたサポート例：証券事業

SBI証券とサポート機能を持った関連企業とのシナジーを一層働かせることによって、SBI証券の競争力をさらに高めてまいります。

例えば、SBI証券のお客さまの中で、SBIリクイディティ・マーケットが扱うFX取引を利用する割合が増えてきています。また、SBIジャパンネクスト証券が運営するPTS（私設取引システム）によって、SBI証券のお客さまは日本の取引所が閉まっている夜間でも取引ができるようになりました。

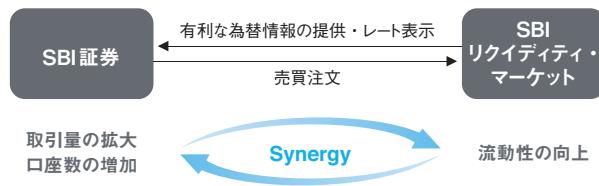
ほかにも、SBI証券のお客さまに対して様々な金融・経済情報を提供する企業との協業が、証券事業に新たなシナジーを生み出しています。



海外商品の取り扱い
SBI証券では、米国株、韓国株、中国株、ロシア株などを取り扱うとともに、米国モーニングスター本社作成のリサーチレポートなどを提供。また、世界銀行債などの外貨建債券を取り扱っています。

SBI証券とSBIリクイディティ・マーケット

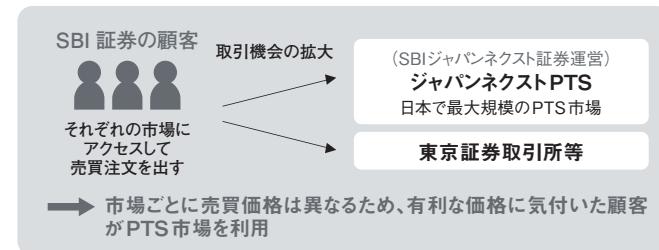
SBI証券での取引拡大がもたらす、SBIリクイディティ・マーケットとの相互成長のための好循環



SBI証券の取引量の拡大により、SBIリクイディティ・マーケットの流動性が高まります。流動性が高まれば、顧客はより利便性の高いFX取引の環境を得ることができ、個人投資家のFX取引の市場規模がますます大きくなります。

SBI証券とSBIジャパンネクスト証券

SBI証券 2007年8月より夜間取引を開始 / 2008年12月より昼間取引を開始



インサイド SBI

インターネットをベースに金融商品を中心とした様々なサービスを提供しているSBIグループの中でも、長年、特に多くのお客さまにご利用・ご愛顧いただいております2つの商品比較サイトについて、サイト運営に携わるスタッフよりご紹介いたします。

E-LOAN

「イー・ローン」は、住宅ローンや自動車ローン、カードローンなど様々なローンの比較・検索・申込みができる日本最大級のローン比較サイトです。提携金融機関数は60社におよび、その中で私は金融機関への営業活動や、ローンを組みたいお客さまへのマーケティング活動を行っています。



イー・ローン事業部 課長 澤田 響

また、最近では新規事業にも注力し、お客さまへより一層有益なサービスを提供するべく、「イー・ローン」の運営で培った経験やノウハウを活かし、個人の信用力を総合的に評価する「myscore」などローン関連サイトの立ち上げも行っています。

今後も新しいサービスの提供や付加価値の創造に努め、公平性・合理性のある健全なローンマーケットの創出を目指してまいります。



提携金融機関 : 60社
ローン商品数 : 540件

イー・ローン
<http://www.eloan.co.jp/>

イー・ローン 検索

保険の窓口 インズウェブ

「保険の窓口インズウェブ」は、保険に関する情報・サービスを提供する日本最大級の保険の比較サイトです。特に自動車保険においてはSBI損保を含む22社が参画しており、2000年のサービス開始以来、10年間で延べ420万人以上の方にご利用いただいております。

現在私は、利用者を増やすためのプロモーション活動を担当しており、費用対効果を特に意識した上で、最大限の成果を上げられるように取り組んでいます。特に2006年から積極的に進めているモバイル展開は、現在では大きな成長を遂げております。

今後もスマートフォンへの対応等、年々進歩していく新たなメディアへの対応を進めつつ、中立的な立場からサービスを提供してまいります。



インズウェブ事業部 アシスタントマネージャー 安井 大輔



提携損害保険会社等 : 22社
提携生命保険会社等 : 22社

保険の窓口インズウェブ
<http://www.insweb.co.jp/>

インズウェブ 検索

※ 数値については2010年3月末現在のものとなります。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約) (百万円)

科目	前期末 2009.3.31	当期末 2010.3.31
資産の部		
流動資産	851,408	980,323
現金及び預金	127,123	143,726
営業投資有価証券	99,029	113,152
預託金 POINT ①	266,365	318,865
信用取引資産 POINT ①	180,800	261,641
その他	178,088	142,937
固定資産	224,685	246,395
有形固定資産	8,577	20,613
無形固定資産	145,892	145,286
投資その他の資産	70,214	80,494
繰延資産	3,139	3,220
資産合計	1,079,233	1,229,939

科目	前期末 2009.3.31	当期末 2010.3.31
負債の部		
流動負債	623,448	747,090
短期借入金	54,658	55,614
1年内償還予定の社債 POINT ②	41,480	112,600
信用取引負債 POINT ①	146,270	150,036
受入保証金 POINT ①	258,068	282,373
その他	122,970	146,465
固定負債	29,193	47,014
特別法上の準備金	7,253	7,219
負債合計	659,894	801,324
純資産の部		
株主資本	360,456	361,282
評価・換算差額等	▲6,937	▲2,051
新株予約権	11	11
少数株主持分	65,808	69,372
純資産合計	419,338	428,615
負債純資産合計	1,079,233	1,229,939

POINT ①

SBI証券を連結しているため、流動資産においては預託金や信用取引資産、流動負債においては信用取引負債や受入保証金などの証券会社特有の勘定が含まれており、これらの勘定が連結バランスシートを大きく見せる要因となっています。また、前期末に比べ預託金ならびに信用取引資産が大きく増加したため、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなっています。

POINT ②

2009年9月に300億円の普通社債を償還した一方で、2009年4月以降、ユーロMTNプログラムに基づき総額1,200億円の社債を発行しました。(うち100億円については償還済み。)

連結損益計算書(要約) (百万円)

科目	前期 2008.4.1~2009.3.31	当期 2009.4.1~2010.3.31
売上高	130,922	124,541
売上原価	63,633	59,138
売上総利益	67,289	65,403
販売費及び一般管理費	62,885	61,971
営業利益	4,403	3,431
営業外収益	2,423	1,185
営業外費用 POINT ③	6,790	3,504
経常利益	37	1,112
特別利益 POINT ④	12,269	3,466
特別損失 POINT ④	28,438	3,658
税金等調整前当期純利益(▲は損失)	▲16,132	920
法人税等	6,148	736
少数株主損失(▲)	▲3,905	▲2,165
当期純利益(▲は損失)	▲18,375	2,350

POINT ③

持分法適用関連会社である住信SBIネット銀行が当期黒字に転換し、持分法による投資損失が減少したことなどにより、営業外費用は前期に比べ48.4%減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (百万円)

科目	前期 2008.4.1~2009.3.31	当期 2009.4.1~2010.3.31
営業活動による キャッシュ・フロー POINT ①	103,034	▲53,134
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,104	▲15,563
財務活動による キャッシュ・フロー POINT ②	▲137,514	84,599
現金及び現金同等物に 係る換算差額	▲102	▲490
現金及び現金同等物の 増減額(▲は減少)	▲35,686	15,410
新規連結等に伴う現金 及び現金同等物の増加額	2,991	858
現金及び現金同等物の 期首残高	159,007	126,312
現金及び現金同等物の 期末残高	126,312	142,581

POINT ④

前期はE*TRADE Korea株式の譲渡益105億円を特別利益に、また(株)ゼファー株式に対する関係会社株式売却損94億円ならびに住友信託銀行(株)株式に対する投資有価証券評価損67億円を特別損失に計上しています。

会社概要 (2010年3月31日現在)

社名	SBIホールディングス株式会社
英文表記	SBI Holdings, Inc.
本社	東京都港区六本木一丁目6番1号
事業内容	株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
設立	1999年7月8日
資本金	55,284百万円
従業員数	連結3,048名 単体208名

役員 (2010年6月29日現在)

代表取締役 執行役員 CEO	北尾 吉孝
取締役 執行役員 CFO	澤田 安太郎
取締役 執行役員	平井 研司
取締役 執行役員	中川 隆
取締役 執行役員	朝倉 智也
取締役 執行役員	沖田 貴史
取締役 執行役員	円山 法昭
取締役 執行役員	森田 俊平
取締役	井土 太良
取締役	城戸 博雅
取締役	木村 紀義
取締役	田坂 広志
取締役	吉田 正樹
取締役	永野 紀吉
取締役	渡邊 啓司
取締役	夏野 剛
取締役	玉木 昭宏
常勤監査役	渡辺 進
監査役	島本 龍次郎
監査役	藤井 厚司
監査役	多田 稔
補欠監査役	中屋 建治

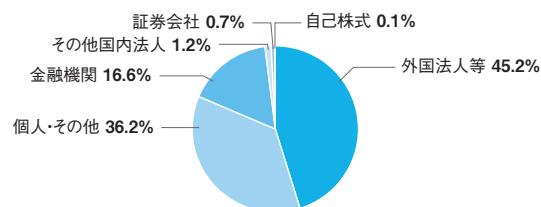
株式の状況 (2010年3月31日現在)

発行可能株式総数	34,169,000株
発行済株式総数	16,782,291株
株主数	194,666名

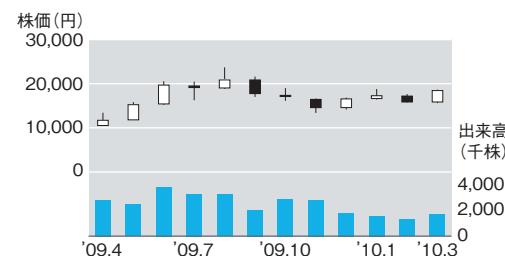
■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
シービーニューヨーク オービス ファンズ	1,668,988	9.9
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	1,395,410	8.3
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	835,424	5.0
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイロンドン エス エル オムニバス アカウ	580,446	3.5
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	495,455	3.0
オーエム04 エスエスピークライアント オムニバス	369,205	2.2
北尾 吉孝	308,126	1.8
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデック アカウ	163,377	1.0
ステート ストリート バンク ウェスト ペンション ファンド クライアント エグゼンプ	156,225	0.9
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー	155,784	0.9

■ 所有者別株式分布状況



■ 株価/出来高の推移



株主優待制度に関するご案内

優待内容

2010年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主および登録株式質権者の皆さまを対象に、「ウォール・ストリート・ジャーナル日本版」の1ヶ月購読権(市価1,980円)を、一律に贈呈いたします。(「ウォール・ストリート・ジャーナル日本版」はインターネットのみでのご提供となります。)株主優待クーポンコードのご利用登録期間は、2010年6月11日～2011年5月31日です。

THE WALL STREET JOURNAL.
ウォール・ストリート・ジャーナル 日本版 japan.WSJ.com



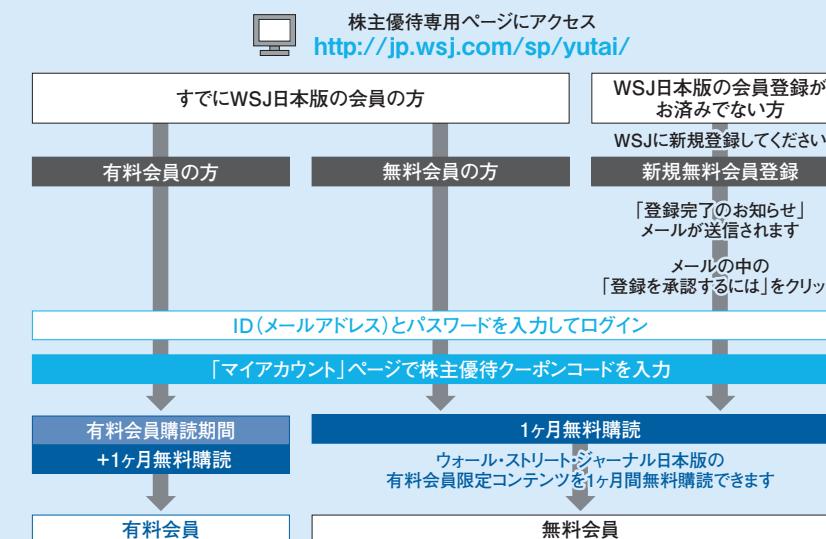
Copyright © 2010 Dow Jones & Company, Inc. All Right Reserved

注意事項

- 「1ヶ月無料期間」は、無料会員さまの場合、株主優待クーポンコード利用登録の日から、利用後最初に到来する1日または15日の1ヶ月後までとなります。
(例：7月13日にご利用登録の場合は同日から8月14日まで、7月16日にご利用登録の場合は同日から8月31日まで)
有料会員さまの場合は、お客さまの有料会員購読期間が1ヶ月延長されます。
- 株主優待クーポンコードは1回に限り、ご利用可能です。
- 株主優待クーポンコードを第三者に譲渡・貸与・質入することはできません。

株主優待クーポンコードのご利用方法

株主優待受付期間:2010年6月11日～2011年5月31日



WSJ日本版は
Twitterをつけています!

最新の更新情報や、編集長おすすめの
記事を紹介しています。

twitter <http://twitter.com>

<http://twitter.com/WSJJapan>

お問い合わせ先

SBIホールディングス株主優待
専用コールセンター

TEL.03-6864-1664

[受付] 月～金曜日9:00～18:00
(土日祝日と12月31日～1月3日を除く)
※ コールセンターの受付は、2010年6月11日
～2011年5月31日です。

株主優待専用ページ

<http://jp.wsj.com/sp/yutai/>